平成２７年度　タイ王国ボランティア交流研修

【第２３回 国際交流タイボランティア活動】

（１）参加者　　◎リーダー，〇サブリーダー，●団　長

生　徒：◎中村 春樹（電子科３年），老沼 達駿（電子科３年），大内　笙（機械科２年）
熊倉 優太（機械科２年），篠原 寛翔（機械科２年），池田 光佑（電子科２年）
舘野 元伸（電子科２年），中野 拓海（電子科２年），古橋 尚哉（電子科２年）
〇印出井 太喜（情報技術科２年），大石 啓太（情報技術科２年）

引　率：●早乙女 文夫（校長），金田　晋（機械科），髙田 真史（電気科），三浦 良暁（電子科）

（２）活動期間と訪問地

① 期　間：平成 27 年１２月１２日（土）
～１２月２０日（日）

② 訪問地：タイ王国　文化歴史：サコンナコン　及び
ダムヌン・サドゥアック
水上マーケット
修理活動：サコンナコン病院
企業訪問：㈱吉野工業所（ウェルグロー工業団地）

（３）これまでのタイ王国ボランティア交流研修（国際交流タイボランティア活動）

１９９１年　２月　創立３０周年記念事業として『国際交流タイボランティア活動』がスタート
１９９３年　１月　車いす修理活動と車いす贈呈を開始
２０１５年　１月　新たなプログラムとして日系企業訪問を加える

（４）空飛ぶ車いす

１９９２年　アジアの問題を考える会より提案を受け、「車いすをアジアの国々へ贈る運動」に着手。使われなくなった車いすを本校で修理し、必要とする海外へと船便で送る。

１９９９年　必要とする障害者施設や障害を持つ方々に、より早く役立たせてもらいたいと考え、空輸により送り届ける「空飛ぶ車いす」活動がスタート。

☆日本社会福祉弘済会支援のもと「空飛ぶ車いす」活動の取り組みは全国へと広まり、現在では全国２８都道府県８５校の学校と社会人グループ４団体にて取り組んでいる。
本校ではこれまで、世界２２ヶ国に２，０１１台の車いすをプレゼント。

（５）タイ王国について

赤…国家
白…仏教
青…王室 を表す

首都：バンコク
人口：約 6500 万人
主要語：タイ語
時差：－2 時間
通貨：バーツ Baht

国土のほぼ全域が熱帯モンスーン気候で、年間を通じて気温が高い。１年は暑季・雨季・乾季の３つのシーズンに分けられ、研修期間である１２月は乾季であるため、ほとんど雨が降らず気候が安定している。

（６）車いす修理活動と車いす贈呈

バンコクから東北に向かって約５３０km にあるサコンナコン病院にて、車いす修理活動を実施。本校生２人～３人に現地タイの学生１人を加えてグループを作り、計５グループにて作業を開始。錆落としやタイヤ交換、シート修復にフットレストやブレーキ等の調整と総合的にメンテナンスを行った。

その中でも特に苦労した活動内容は下記の５点

① 錆落とし（日本では考えられないほどの錆）
② フレームの歪み修正
③ フレームの溶接加工
④ パーツ取り用の車いす２，３台を利用して、１台の車いすを完成
⑤ シートの破れ修復（裁縫）

今回、現地タイの学生と共にグループを組み修理活動を行ったことで、コミュニケーションの大切さを学ぶことができた。はじめは戸惑いもあったが、自ら積極的にタイ語帳や片言の英語、そしてジェスチャーを使って話しかけることで、親睦を深めることができた。その結果、作業効率も上がり３日間での目標としていた３０台を超える３４台の車いす修理を終えることができた。

日本から持参した１２台の車いすを合わせ贈呈し、また修理した車いすを利用者に直接手渡すことで利用者の利便性を考え、各調整をその場で行うことができた。手渡した方々から感謝の言葉を頂き喜びと感動を味わうことができた。そして、今回記念すべき２，０００台を達成し、これまで継続してきた本校の取り組みに誇りを持つことができた。

（７）交流会について

　入院患者の子供たちのために、タイでもよく知られている日本のアニメソング「ドラえもんの歌」、そしてタイで人気のアニメソング「チャーン（象）」を歌った。他にもマジックを披露するなど、子供たちと一緒に同じ時間を過ごせたことで共に笑顔が溢れ、よい交流会となった。

　その後、子供たちに文房具などを１人１人にプレゼント。

（８）日系企業訪問

　グローバルな人材育成を目的としたこのプログラムも２回目となり、今回私たちは吉野工業所を訪れた。ここでは化粧品や調味料などのプラスチック容器の生産を行っており、日本で売られている様々な商品に使用されている。生産過程を見学させて頂き、工場内における衛生環境や生産ラインなどの説明はもちろん、懇談会では海外勤務におけるやりがいや苦労話など、いろいろなことを学ぶことができた。また、工場長が栃木市出身ということもあり、海外勤務を身近に感じることができた。

（９）ホルト・サハタイ財団訪問

　長い間、この研修をサポートして頂いているサハタイ財団へ研修団として初めて訪れた。

　財団が本来どのような仕事をされているのか知ることができ、その取り組みの素晴らしさを理解することができた。そして仕事が多忙の中、この研修を支えて下さっていることを改めて知り、感謝してもしきれない思いであった。

（１０）活動のまとめ

私たちは今回のタイ王国ボランティア交流研修にて『思いやりの心』そして『感謝』すること、されることの素晴らしさを知ることができた。現地タイの学生と共に修理活動を行うといった初めての試みもうまくいき、コミュニケーションの機会を多く得られたことで、自ら積極的に行動することの必要性を感じ、コミュニケーションの大切さを改めて知ることができた。

一緒に修理活動に励んだタイの学生たちも今後車いす修理活動を継続していくとの思いを寄せてくれたことがとても嬉しく、私たちもできることをしっかりと継続していきたい。

今回、私たちがタイで経験した貴重な体験をこれからの人生に活かすとともに、この素晴らしい活動について、本校生徒をはじめ多くの人たちに広めていきたい。

（１１）最後にご支援・ご協力いただきました多くの方々に感謝いたします

- ホルト・サハタイ財団（サイワルーン 氏，スパワディー 氏，パンニー 氏）
- タイコン・インダストリアル・コネクション㈱
- 栃木西ロータリークラブ
- 国際ソロプチミスト栃木
- 栃木市社会福祉協議会
- （公財）日本社会福祉弘済会
- 栃木県教育委員会
- 栃木工業高校同窓会
- 栃木工業高校 PTA

～ 事前研修 ～

【タイ語指導】久保 哲夫 氏

【しらさぎ祭】栃木県立栃木特別支援学校

【車いす修理活動および交流会】

医療法人陽気会 とちの木病院

介護老人保健施設　とちの実